

国連環境計画（UNEP）が熊本・水俣両市で開く「水銀に関する水俣条約」の外交会議が来月7日に迫った。11日までの期間中、約140カ国から800人を超える国連、各国政府、国際機関、国際NGO（非政府組織）の代表らが訪れる。

これだけ多くの海外の要人が1週間近く熊本市に滞在することはめつたにない。国際都市を疑似体験できる好機と捉え、国際化を目指す県や熊本市にとって、何が足りないのか検証し、今後に生かしたい。

熊本市の国際化度について、熊本大大学院の医学、薬学教育部HIGOプログラムの学生3人が11日、繁華街や熊本駅、交通センター、熊本城で調べた。その結果、①熊本駅新幹線口では英語対応の案内所の場所が分かりにくい②市電は行き先表示が漢字のみ③交通センターには

国際都市の疑似体験

射程

英語対応がほとんどないーなど外国人に優しくない現状が浮き彫りになった。

来月の国連会議受け入れでは各国からのホテル予約に備え、国がネット上に英文予約サイトを設け、熊本市内の10ホテルにつないでいる。熊本では通りに英語表示が少ないため、県推進協議会が上通、下通など4カ所に案内所を設置。飲食店、薬局、コンビニ、銀行を記した英文マップ、市電無料券も準備して「おもてなし」に力を入れる。

今回は緊急の対応で切り抜けるが、2020年の東京五輪決定で九州への訪日客は増加が見込まれる。県、熊本市は工程表を作り受け皿を充実すべきだ。熊本市は清潔で安全で便利。

それに食べ物も水もおいしく、欧米の都市に引けを取らない。欠けているのは訪日外国人への配慮だろう。（井芹道一）